

第1回 Web オープンキャンパス(6/14) 学科相談コーナー Q&A

国際文化交流学科

Q1 英語が苦手でも英語ができるようになりますか？英語以外は何が学べますか？

A1

- ・「国際」という学科名称から英語が必須のイメージがありますが、英語は選択科目です。
- ・母語である日本語は必修科目です。(日本語表現法・日本語口頭表現・日本語表現演習などの授業で日本語の能力を高めます。)
- ・英語を学びたい人向けに多くの科目が用意されており、英語の運用能力を高めることができるカリキュラムになっています。
- ・本学科では英語は習熟度別にクラス分けを行い、基礎から学べるようにしています。
- ・英検や TOEIC 受験も授業内でサポートしています。
- ・英語だけでなく、韓国・朝鮮語、中国語を学ぶことも可能です。2年間を通してこれらの言語が学べるのは本学科だけです。

Q2 留学制度はありますか？海外研修とはどのようなものですか？

A2

- ・制度としての留学はありません。卒業後、語学留学やワーキングホリデーを希望する学生もいます。(実績:韓国、台湾、オーストラリアなど)
- ・海外研修として、1年後期に「異文化研修」があります。この研修では例年、3月に2週間程度、ニュージーランドへ行っています。午前中は語学学校に通いながら、午後はアクティビティを楽しむスケジュールになっています。ホームステイを基本とし、現地の方に交じって生活することで、実際の海外の方の暮らしを体験します。費用は約35万円程度で、希望者のみが参加します。
- ・短期の海外研修では、例年夏季休暇中に台湾などアジア圏の国へ行っています。

Q3 コミュニケーションが苦手です。

A3

- ・コミュニケーションが得意で伸ばしたい学生と、どちらかという苦手なので苦手意識を取り除きたい学生と、おおよそ半々に分かります。
- ・入門編として、1年前期の「交流とホスピタリティ」で、まず人との接し方について学びます。
- ・授業ではグループワークなどを多く取り入れており、苦手な人でも少しずつコミュニケーションや人と話すことに慣れていくことができます。
- ・プレゼンテーションの機会も多くあり、1年が終わるころにはほとんどの学生が、人前で話すことへの苦手意識がなくなっています。
- ・自分なりに、今よりもワンランクもツーランクも上をめざしてみましよう。
- ・2年間の学びで、自分に自信を持つことができるようになりますよ。

Q4 司書になるのは難しいですか？

A4

- ・司書の資格取得は国際文化交流学科、生活学科で可能です。
- ・資格取得者数、実際の就職件数ともに多いのは本学科です。
- ・現状として、司書は正職員の求人は少なく、嘱託職員や臨時職員での採用が多です。

・司書の仕事は本の整理や貸し借りだけでなく、来館者への対応や資料探しの相談なども重要な業務です。

コミュニケーション力や情報収集・分析・活用能力など本学科の学びが活かされます。

- ・平成 30 年度より、学校司書のモデルカリキュラムを開講し、学校司書の養成も行っています。
- ・公立図書館のほか、学校図書館で資格を活かす学生もいます。

Q5 学校司書とは何ですか？。

A5

- ・学校図書館法に定められる、学校図書館の職務に従事する職員のことです。
- ・学校図書館において、司書教諭などとともに、児童生徒の学習や読書活動を支えています。
- ・山陰両県は学校司書の配置が進んでいる地域です。
- ・司書の学びに加えて、学校図書館についての知識をもった司書が求められる傾向にあります。
- ・モデルカリキュラムを導入している大学はまだ全国的に少ないのが現状です。
- ・学校司書の学びができるのは本学科のみです。

Q6 主な進路は？

A6

※ガイド p20

- ・学んだコミュニケーション力を活かし、サービス接遇や営業・販売など、「人と接する仕事」につく人が多いです。
- ・資格を活かして「図書館司書」になる人もいます。
- ・4 年大卒業と同等の「学士の学位」が取得できる本学専攻科や、他の 4 年制大学に進学する人も多いです。
- ・言語を活かした就職先だと、ホテル・旅館など観光業、空港のグランドスタッフなどを選ぶ学生もいます。

Q7 取得できる資格は？

A7

※ガイド p19

- ・プレゼンテーション実務士
効果的で説得力のある発表を行うことができる
- ・ビジネス実務士
ビジネス社会で働くために必要な基本的知識と技能を身につける
- ・図書館司書
読書や情報検索について学び、公共図書館や学校図書館で資格を活かす
- ・【検定資格】
コミュニケーション検定(初級)、日本語検定、英検、TOEIC
※すべて授業の中で検定対策を行っています。

Q8 島根大学に進学した実績は？ 何か条件はあるのか？

A8

- ・島根大学へは、編入試験を受けて3年次に編入する学生がいます。編入した学生の多くは法文学部言語文化学科へ進学しています。
- ・条件は特にありませんが、学びの内容(履修する授業など)が編入先の大学のカリキュラムと大きく異なると、単位変換が難しかったり面接時にその点を詳しく答えなくてはならなくなります。また、編入試験は簡単ではないので、試験に向けて計画を立てて勉強していくことが大切です。

Q9 国際交流はどのくらい行われていますか？

A9

- ・授業としては、1年前期にある「交流とホスピタリティ」で鳥取大学に短期で来られる留学生(去年は台湾・韓国の学生)と、1年後期には「異文化交流」の授業で鳥取県内のALT(外国語指導助手)・CIR(国際交流員)と交流します。
- ・その他、毎年「くらし国際交流フェスティバル」に学科として参加しており、そこでも交流の機会があります。
- ・短期・長期の海外研修では、実際に海外へ行って文化体験・交流をしています。

Q10 授業はむずかしいですか？ ついていけるか不安です。

A10

- ・高校とは授業や学びのスタイルが違うので、心配かもしれませんね。英語ではレベルを分けて授業を行うなどで対策をしています。
- ・また、教員は週1回オフィスアワーを設けており、その時間は基本的に各研究室に教員がいるので、気軽に分からないところをきいたり、相談したりすることができます。
- ・さらに、1年前期に必修の「スタディスキル」という授業があり、大学での「学び方」を詳しく学修できます。